

ふるさと館の水槽で
サケが今年も産卵



ふるさと館の水槽に今年もサケが仲間入りし、訪れる人たちの目を

楽しませてくれていますが、そのサケが今年も水槽内で産卵しまし

ました。(詳しくは十ページをご覧ください)

まぐべつ

'80 昭和 (55年)

346

●発行・幕別町役場 幕別町本町130番地 ☎(01555) 4-2111
●編集・町民課広報広聴係 ☎内線111 ●印刷・ソーゴ印刷

11

第3回 産業まつり



にぎわった産業まつり

「第三回産業まつり」が、十月五日依田公園において行なわれました。天候も雲ひとつない秋晴れとなり、家族連れでにぎわい一万人を越す人出となりました。

も並びチビッコたちの目は、ぎ付。郷土芸能の糠内獅子舞が出演するころには、まつりも最高潮となり一時は一万人を越す人出で依田公園を埋めつくしました。

会場では、鯉のつかみどりや野菜の即売、カラオケ大会などが行なわれ、また、町商工会婦人部や町料飲店組合の皆さんによる出店

会場隣りには、ことし完成したミニアスレチックもあり、子供たちでいっぱいでした。

に15,000人



ミニ・アスレチックが完成

鯉のつかみどりに多くの人が挑戦



三十年後は……

ふるさと館でタイムカプセルを埋設

「二十一世紀へメッセージを」と、ふるさと館が開館一周年を記念して「タイム・カプセル」を十月五日埋設しました。タイム・カプセルには、町内に住む小学一年

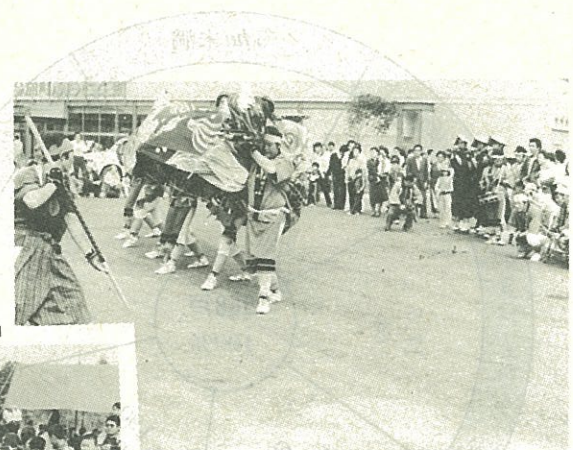
生の宝物や未来を予測したアンケートが納められています。このタイムカプセルは、二十年後の西暦二〇〇〇年十月の第一日曜日に開けられることになっています。



「20年後は」と夢をふくらませタイムカプセルを埋設

秋晴れのもと 依田公園

遊楽園



「ハッケヨォーイ、のこった!!」

郷土芸能糠内獅子舞



「これこそ芸術や」とチンドン屋のおじさん



「やったぜ」お父さんががんばる



「あの人だいたいじょうぶかな」カラオケ大会会場で



「ボクたち楽ちん」ボニー君汗だく



「何んでも飛ばような」売れいき!

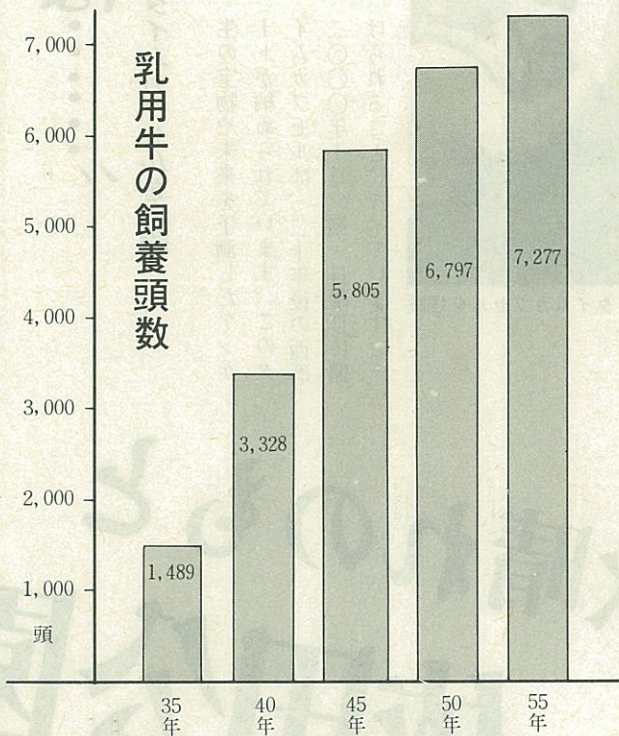


「右左、右左」お母さん離さないでよ

搾乳用機械が増加

一戸当り平均耕地面積は14.7ヘクタール

— 農業センサスの結果 —



耕地面積

一万四千二百二十二畝、そのうち畑一万三千九百十八畝（牧草専

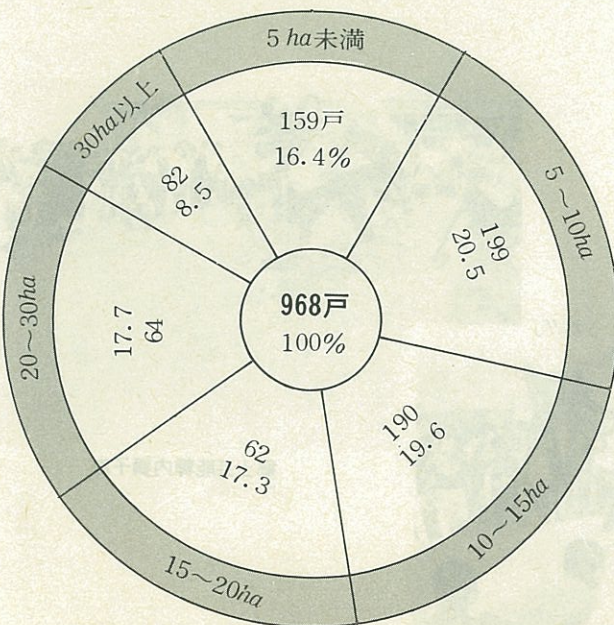
用地含む）、田三百一畝、樹園地三畝となつていますが、稲を作らなかつた田は百四十七畝もあります。一戸当りの平均耕地面積をみますと十四・七畝と前回調査に比べ二・一畝も増えています。

また、一戸当り二十畝以上の耕作戸数は二百五十三戸、前回調査と比べますと四十九戸増えています。大型農業化を示しています。

農林業関係の最も基本的な資料として使われる世界農林業センサス（五年毎に実施）が、今年の二月一日現在で、八十三名の調査員により実施、この度、国から公表されました。

この調査により、五十年調査時より農家戸数は百三十三戸少ない九百六十八戸、農業従事者は四百八十六人少ない二千八百六十二人となりました。一方、動力耕うん機及びトラクターは四百四十六台多い千四百二十八台となっています。

経営規模別農家数



農家戸数と世帯人員数

農家戸数は九百六十八戸で、このうち専業農家は六百七十五戸、

作物収穫面積

最も収穫面積が多いのは豆類で二千六百四畝で十九%、次いで馬鈴しよ、ビートがそれぞれ十六%と十五%、野菜類が三%となっています。なお、飼料用作物は二八%です。前回調査と比較しますと豆類の収穫面積が減少し、寒冷地作物の馬鈴しよ、ビートが増加しました。

(六九・八%)、農業のかたわら他の仕事についている第一種兼業農家は二百十九戸(二一・六%)農業以外の仕事につき片手間で農業に従事している第二種兼業農家は七十四戸(七・六%)となつています。これを前回調査と比較しますと総数で百三十三戸減つてます。やはり後継者問題が大きくとりざたされているものと思われ

ます。
また、四千四百六十二人の世帯人員のうち、農業に従事している方は二千八百六十二人で、農業従

事率は六四%になります。その内六十才以上の高齢者が六百八人もいます。他の千六百人は老人、子供、または他の職業等についており、農業従事率は、機械化その他の理由から更に減少するものと予想されています。

家畜の飼養頭数

乳用牛を飼育している農家戸数は二百五十八戸、頭数は七千二百七十七頭、一戸当り飼養頭数は、二十八頭強となっています。これ

を前回調査に比較しますと十一・九頭が増えて、しかも五十頭以上飼育している農家は十四戸あり、増々大型酪農化の傾向にあります。肉用牛は八十一戸、千五百六十六頭飼育し、一戸当り平均十九頭強となっています。前回調査に比較しますと二・三頭が増えてい

ます。
その他、馬三百三十四頭(百二十九戸)、にわとり六千二百五十九羽(十六戸)、豚三十九頭(三戸)で前回調査より大幅に減少しています。

農用機械

動力耕うん機及びトラクターで個人所有は八百三十戸、千四百三十八台、一戸当り平均一・七台となつています。前回調査では、一・三台でした。

搾乳用機械は、ミルカーが三百二十五台(二百三十戸)、バルククーラ二百二十五台(二百二十五戸)で特にミルカーのパイプライン型が増加し、大型酪農化傾向が目につきます。

危険動物の飼養は

十月一日から許可制に

最近、ひぐま、ライオン、シカ、サルなど危険動物を愛がん、展示などの目的で飼養することが増えて

います。
これらの野性の動物は人間と生活を共にしたことがないため、適正な飼養や管理を欠けば大変危険です。

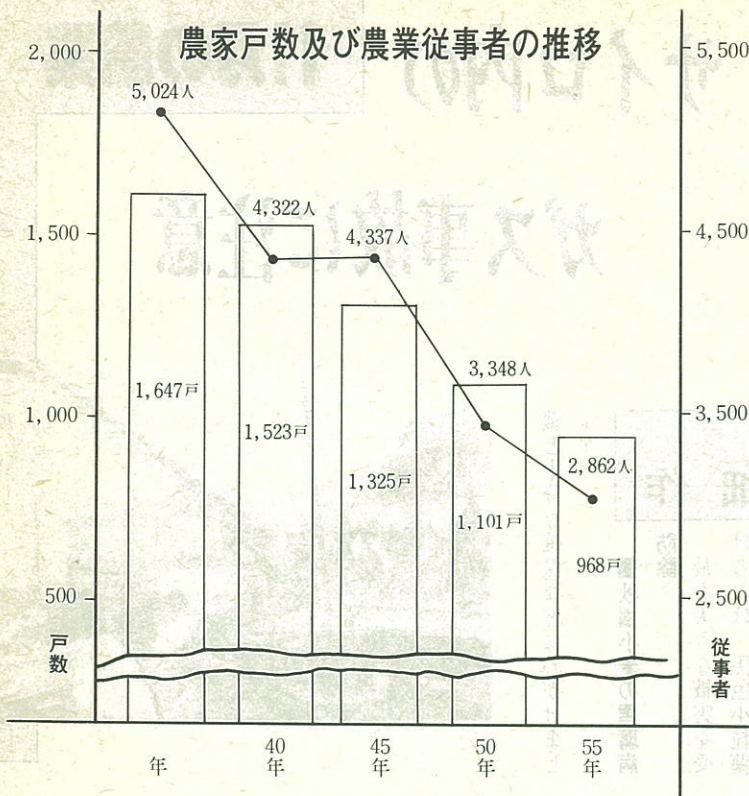
道では、このような動物の「危険動物飼養規制条例」を制定しました。

この条例は十月一日から知事の許可制(現在の飼養者は、来年三月までに)となりました。

飼養の許可を受けようとする方は、申請書を町経由で知事へ提出することになります。

これに違反すると罰則規定がありますので、飼養者は十分に注意してください。詳しいことについては役場町民課環境衛生係へお問い合わせください。

農家戸数及び農業従事者の推移



札内寮の増築完成 入寮者定員90名に

社会福祉法人、幕別真幸協会では、特別養護老人ホーム札内寮を現在の寮の北側に増築中でしたが十月一日に完成しました。

増築は、総事業費一億千六百六十九万円で、建物の規模は鉄筋コンクリート造平屋建七百二十九平方メートルです。この増築により入寮定員が五十八名のところ九十名が入寮できるようになりました。

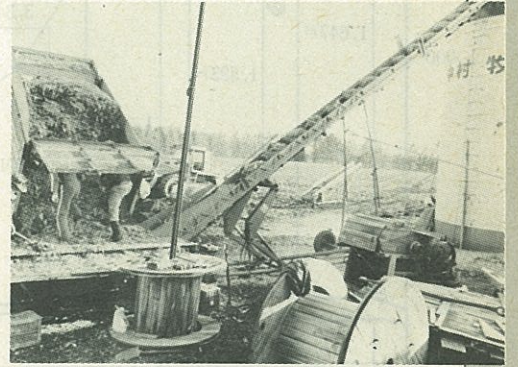
札内寮は、幕別温泉のお湯を利用でき、温泉のある老人ホームは全国でもあまり例がなく、ホーム入寮者は明るく楽しく過ごすことができるような施設になっています。なお、入寮希望者、または、く



わしい内容は近くの民生委員が役場民生課福祉係へお申し出ください。

サイロ内の

ガス事故に注意



蔵と十分な確保などに心がけましょう。

畑作

■秋播小麦の雪腐病
 最も大きな被害を受けるのは、黒色小粒菌核病と大粒菌核病です。

黒色小粒菌核病の繁殖適温は七度から十五度で、土壌表面の有機物（枯葉・麦稈など）で繁殖し、麦の葉が地面に接着すると菌糸が直接葉に侵入します。気象的には、晩秋に降雨量が多く温度が高い場合や、根雪が早く積雪量の多い年で、土壌凍結の少ない場合に多く発生します。

秋の取り入れも殆んど終り、日も短くなって、朝晩の寒さも日増しに厳しく、長い冬の足音が感じられるようになりました。冬に入る前に、秋播小麦の雪腐病防除やてん菜・豆類畑の秋耕、農繁期に活躍した農業機械の十分な手入れと整備、格納を確実にこなうよう

にいたしましょう。
 また、家のまわりでは、夏に美しく咲いた花だんの整地や庭木の冬囲い、果実を収穫したあとの果樹の防除と手入れ、大根・人参など長期保存できる越冬野菜の貯

防除農業であるトップジンM水和剤は小粒菌核病に殆んど効果がなく、紅色雪腐病と大粒菌核病のみ効果があります。

防除時期は、十一月十日から十五日を目途にPCP水容剤一キロとトップジンM水和剤を十坪当たり五十グラム散布してください。散布後に三〇以上の降雨があった場合はトップジンM水和剤のみを十一月二十五日頃までに散布してください。

■優良種子の確保

長雨のために腐敗粒や灰色カビ病の菌が付着していますので安全確保の期待できる品種を選び、貯蔵にあたっては湿度の少ないよく乾燥するところに保管しましょう。優良種子も数年更新せずに使用すると退化し、品種の特長を失い減収の要因となるので、できるだけ新しいものに取りかえるようにしてください。

■堆肥の生産

堆肥は腐熟の進んだ良質のものを使用します。腐熟を進めるために豆がら・麦稈などの原料を堆積する際に水をかけ、半月位おきに四回程度切り返しをフロントローダで行ない腐熟を早めます。

■反省と明年度の計画

ことしの営農をふり振り返り作付割合・施肥量・適期農業の使用・適切な栽培管理によって満足する収穫を得ることができたか、減収要因は何かをよく理解し、より綿密

に翌年度の計画をたてましょう。経営簿の記入もれなどもよく点検し、未収入・未払金を整理し、収支決算を行なう資産台帳などもきちんと整理し、明年度の営農計画の参考にしてください。

畜産

■端境期の飼料給与
 この時期は乳牛の飼料給与と技術のなかで最も困難な時です。放牧や夏型飼料から舎飼型飼料給与へと移行する時期であり基礎飼料の種類や栄養価の変化及び牛の体調も季節の変化と同時に変わるので飼料給与と牛の体調を考慮した飼料給与と技術を取り入れることが大切です。泌乳量や必要養分量を十分計算して給与するよう

にしてください。

■舎飼期給与飼料の点検

夏期と冬期間における基礎飼料の摂取養分量の差を大きくしないことが重要です。そのためには、一番草、二番草の収納状況や数量及びサイレージをはじめ飼料のすべてを飼養頭数に応じた必要量や確保量を点検して、冬期間の給与作業が能率的に行なえるように準備を今から整えておくようにしましょう。

■サイロの開口する時の注意

十一月にはサイロを開口する事になります。本年は未熟の原料を詰込んだので日数経過も四十五日から五十日あり、給与するためサイロを開けますが、その時に

注意しなければならぬのはサイロ内に充満したガスが発生しているのを口を開けるときは十分注意してください。

■有毒ガスの特性

有毒のガスとは、サイレージが作られる過程で発酵がおこり数種類のガスが発生します。そのガスのうち主となるものは、炭酸ガスと二酸化窒素ガスですが、そのうち炭酸ガスは有毒ではありません。二酸化窒素ガスは、漂白剤のような臭いがし、色は黄褐色で空気より重く下に沈むので開口部より下の作業は非常に危険ですから開口作業は必ず開口部より上で行なうようにしましょう。

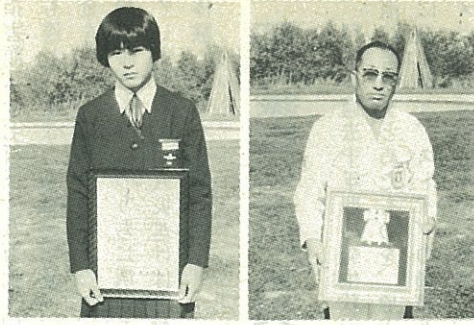
また、サイロと牛舎がつながっている場合には牛舎の方にガスが流入しないように戸を完全に閉めてから開口するなどの細心の注意をはらって作業をすすめ人畜に事故のないようにしてください。

■畜舎周囲の整理

十一月に入ると農作業が一段落する頃です。降雪の前の重要な作業として住宅や畜舎周囲の整理・整頓が重要です。とくに、畜舎周囲のビニールの破切れ、釘くづなど春から秋までに使用した肥料の空袋などが以外に多くあるものです。牛（とくに子牛）は好気心でそれらのものを口にすることが度々あります。家畜の事故防止からもこうした作業は必ず励行するようにしたいものです。

小川・佐藤さんを表彰

十月十日、体育の日に次のお二人を特別表彰いたしました。



佐藤 恵美さん 小川 邦正さん

チビッコスイマー

今年も大活躍

幕別スイミングスクールが開校して三年、ことしも、全十勝はもとより全道の水泳大会で、好成績をおさめ注目されています。

特に、十勝管内の各大会では、圧倒的に強く、九月七日幕別温泉プールで行なわれた「第二十一回全十勝水泳選手権大会」では完全優勝を果しました。

また、一九八〇年度北海道プロックジュニアオリンピック夏季水泳大会においても、四百メートルなどで三位に入賞しました。今シーズン最後を飾る十一月二日の大会に向け練習中です。

●小川邦正さん（古舞）は、一年、銃剣道の普及、指導に尽された功績で、黒川教育委員長より表彰されました。

●佐藤恵美さん（札内中学校・札内青葉町）は、第三十三回中学一年健康優良全道一に輝き、大石町長より表彰されました。

スポーツの秋

各種目で熱戦



●全町卓球大会

全町卓球大会が、十月十九日、幕別中学校体育館において行なわれました。

大会には、小学生から一般壮年まで、百六十人が参加。会場に設けられた卓球台九台が不足するほどの参加となりました。



●全町マラソン大会

第十一回全町マラソン大会が、十月十日町陸上競技場において、六歳の幼児から六十歳のお年寄りまで三百二十人が参加して行なわれました。大会は、ひとりの落伍者もなく全員が完走、健脚を競いました。

●全町バトミントン大会

全町バトミントン大会が、十月十九日、札内中学校体育館において行なわれました。

大会には、昨年を上回る五十二人が参加してクラス別リーグ戦で行なわれました。



●東部十勝少年柔道大会

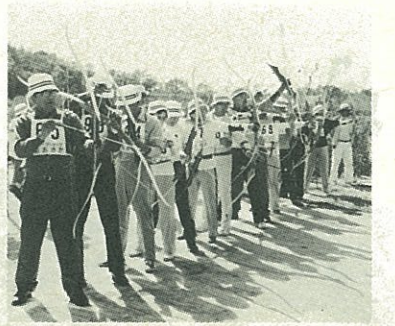
第七回東部十勝少年柔道大会が十月十九日、幕別小学校体育館において行なわれました。その結果中学生の部で、全幕別チームと個人で長内繁君（札内中学校）、小学生の部個人で道下訓央君（幕別小学校）が優勝しました。



●寿アーチエリー大会

六十歳以上のお年寄りが参加して、第二回寿アーチエリー大会が十月十日運動公園内の寿レンジにおいて行なわれました。

大会には、八十一歳の小川条太郎さん（札内中央町）を筆頭に二十五人が参加しました。



●全十勝剣道大会

第十一回全十勝剣道大会が十月十二日幕別高校体育館において、十勝管内から三百五十人が参加して行なわれました。

幕別町も参加しましたが、健闘むなしく三回戦で敗退、入賞できませんでした。



火災シーズ

あなたです 火事を出すのも防ぐのも

寒さが厳しくなるにつれ、暖房器具を満開にして暖房をとる機会が多くなりました。

本町での過去十年間の統計によりますと、十一月から一月にかけての建物の火災発生が非常に多いことが幕別消防署の調査でわかりました。

また、今年の一月から九月までに七件ものの発生があり、その原因は、●ガスの取扱い不注意 ●子供の火遊び ●ストーブの取扱い不注意、などとなっています。損害額は千七百三十八万七千円にも達し、その家庭の財産や、お金をいくら出しても買えない、大切なもの一瞬のうちに灰になってしまいます。火災だけは絶対に体験したくないものです。

留守家庭に多い火災

町内の過去十年間の発生状況を消防署でまとめたものを、原因別に見ますと、ストーブの過熱及びメガネ石の不完全が一番多く、次いで子供の火遊び、タバコの不始末などの順で、私たちが注意していれば防げる発生原因ばかりです。

発生時間帯は、午前十時から午

後三時までには全体の四十一%と多く、この時間帯は共働き等による留守家庭が多いことが原因であるほか、炊事時の午後五時から六時から多く発生していることがわかりました。

これら、十分に注意するとともに最近では、全国的に、自力で避難できない幼児、老人、体の不自由



な方の焼死事故が多く発生しています。なるべく一階で生活、寝せるの配慮が必要でないでしょうか

家庭での防火対策

○ 消火器の取扱い、避難方法について家庭内で話し合いをしまし

よう。

○ 寝る前、外出前の火元の点検をしましょう。

○ 寝タバコは、絶対にやめましょう。

○ 電気器具、ガス器具などの使用後の点検を確認しましょう。

○ 移動式ストーブは、完全に火が消えてから給油、又は移動しましょう。

踏切だ、必ず一旦停止

最近、踏切事故が多発しています。警報無視、しゃ断機のくぐり抜けによるものが最も多く、その外自動車による停止位置不良、落輪、エンストなどが多いです。

本町にも多くの踏切があります。しかし、事故を起しますと列車の乗客はもとより自動車、通行人にも死傷につながります。

特に、これから物資輸送の繁忙期に伴い事故が心配されます。

一般道路の安全も大切ですが、踏切の交通

○ 燃焼器具は、複雑な構造が多いため、修理等は専門家にしてもらしましょう。

○ 子供の火遊びは最も危険です。家庭内で火の恐しさを話し合ひましょう。

消火器の取扱い方法などについて公区内で講習会を開きましょう。必要があれば消防署員が講習にあたりますので、ご連絡を下さい。

消火体制の充実

消防署札内出張所に、小型動力ポンプ付水そう車が導入しました。この水そう車は、従来の消防車

安全にも充分注意しましょう。

○ 踏切では、必ず一旦停止し左右の安全を確かめて通行しましょう。

○ まだ、間がある。こんな油断が事故のもとです。列車のスピードは思ったより早いので、列車が見えたら待ちましょう。

○ しゃ断機が降り始めたり、警報機が鳴っている時は、絶対踏切へ入らないようにしましょう。

○ 踏切上で車が動かなくなった場合、踏切に警報機がついていたら非常ボタンを押して列車を停止させましょう。警報機のない踏切では発炎筒、赤ランプ、赤旗を大きく振って危険を知らせましょう。

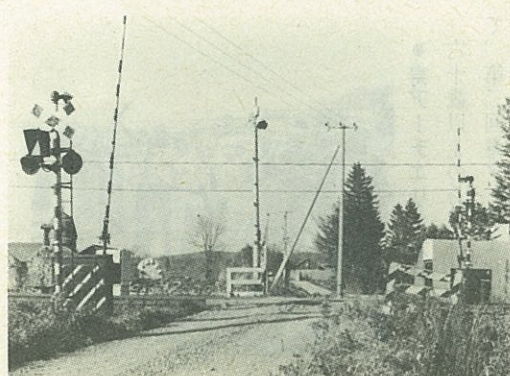
○ 通園、通学時または、家庭では、子供を踏切や踏切付近で遊ば

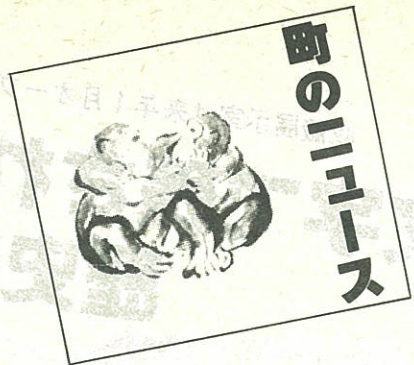
水そうの三倍以上という十升の水を積める強力なものです。これまでの火災の大半が水の便が悪い地区で発生しており、この導入により、初期消火に発揮することができま



札内消防署に水そう車が入る

せないようにし、遊んでいるのを見かけたら皆まで注意してやりましょう。





▲ 老人運動会が9月30日、運動公園において630人が参加して行なわれました。また、競技の合い間には、幕別中央保育所の子供たちがお遊戯を披露、お昼には、婦人ボランティアの皆さんがブタ汁を接待と楽しい一日でした。



▲ 町青年団体連絡協議会主催の第7回農業祭が、10月19日役場前において行なわれました。この日は、野菜の即売、東郷町・岡山市の物産展示即売も行なわれ、用意した野菜などは発売とともにすぐ売り切れるほどでした。



▲ 春より造成が行なわれていた青葉町公園がこの度、完成。青葉町公区では、使用開始に当り公区みんなで安全祈願を行ないました。



▲ 桂町公区では、今年で公区創立10周年を迎えましたが、その記念式典を第5回公区運動会に合せ行ないました。また、運動会終了後アキアジ鍋を食べ、200人の参加者で賑わいました。

▼ 緑町2公区の創立15周年記念式典が10月12日青少年会館で行なわれました。これに合わせ同公区では、15年間の歩みを記念誌に残そうと記念誌「歩み15年の架」を発行。また、同公区は、廃品回収の益金をこの記念事業費にあてようと計画、公区全員の協力で目標の30万円を上回る益金を集めました。



寄付者のお名前

社会福祉協議会へ：

▼幕別町民謡会から一万円
 ▼設楽晃さん（札内泉町）から二万円
 ▼石川末吉さん（札内あかしや町）から車椅子一台
 ▼匿名の方から千円

老人クラブへ：

▼林五月さん（寿町）から幕別老人クラブへ三万円
 ▼設楽晃さん（札内泉町）から日新老人クラブへ二万円
 ▼種田ユキさん（札内中央町）から札内老人クラブへ一万円
 ▼浦田ミヨさん（札内中央町）から札内老人クラブと札内鉄南老人クラブへレコード百枚

身体障害者福祉協会幕別分会へ：

図書への寄付：

▼設楽晃さん（札内泉町）から二万円
 ▼増谷聡子さん（旭町）から百七冊
 ▼香田はるみさん（錦町）から六冊
 ▼札内泉町公区から札内神社祭典に伴い三万円相当の図書を札内南小学校へ

ライオンズクラブが町に寄付

幕別ライオンズクラブが創立十周年を迎え、その記念式典が九月二十八日、町民会館において行なわれました。同クラブでは、この記念事業の一つに「止若公園」の造成整備を計画。昭和五十年から

逢坂さんに紺綬褒章

錦町の逢坂又市さんから町の消防施設の整備充実に使ってほしいと町へ百万円の寄付があり、これに対する紺綬褒章の伝達が行なわれました。



大石町長に目録を手渡す杉野会長

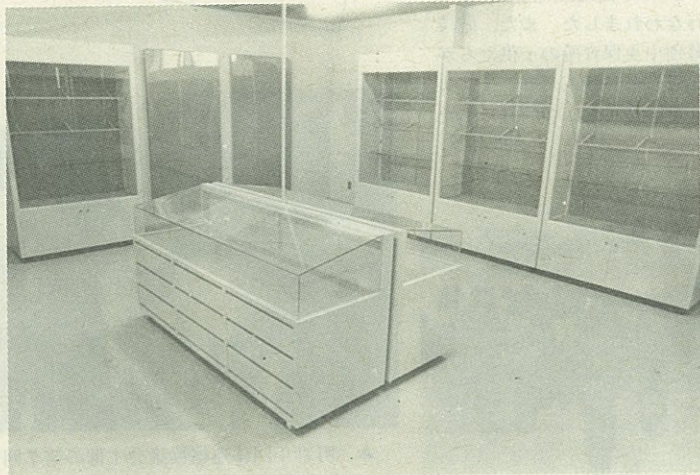
五年間をかけた三千七百二十六平方メートル、八百七十九万五千円と会員の労働奉仕でつばな公園が完成。記念式典において杉野会長から大石町長へ贈られました。また、オリエンテering大会器具購入資金にと二十万円が合わせて贈られました。



収蔵展示室は来年1月オープン

文字で残された 歴史の迫力

からっぽのケースが、みなさんから届けられる資料を待っています。



ふるさと館がオープンしてから一年たちました。この間、たくさんの人たちから、町の歴史を知るのに必要な資料が寄せられています。ですが、本や書類などの資料はまだ不足しています。ふるさと館を作り育ててきたのは、町民一人一人の力が集まったからこそです。なおいっそうの力をお貸しく

下さいます。収蔵展示室は来年一月にオープンします。ふるさと館の来館者数が四万人を超えました。この一年、サケの産卵をはじめ、サブイバルスクールなどの企画にたくさんの方が参加してくれました。ふるさと館はまだ生まれたいばかり。スタッフ一同、新しい企画をいっぱい抱えています。お楽しみに……。

サーモン通信

①

ことしもサケがジャンボ水槽で卵を産みました。10月19日深夜1時45分、そして同日の夕方4時15分でした。

いま、水槽の砂利の中でふ化の日にむかって成長をつづけています。ふ化は12月初めごろと予想しています。

11月中旬に受精卵は別水槽に移します。昨年は他の魚の病気が稚魚に感染して死んでしまった苦い経験があります。そこで、ことしから水の循環をジャンボ水槽と別にした小さな水槽に分けて飼育します。成長のようすはビデオと写真で記録していきます。



第4回特別展 産業の夜明け

製造業編

幕別の産業のはじまりを業種別に調べてみました。国鉄根室本線の鉄橋を支えていたのは、幕別で造ったレンガでした。こうしたわが町の製造業の歴史を、たくさんの資料で明らかにしました。

収蔵展示室ができました。古い本や書類など、文字で残された歴史を保存・展示するための部屋で公開にむけて準備中です。昔の教科書、手紙、新聞、雑誌、証書、ビラ、ポスター、地図、その他の出版物をテーマ別に展示します。

ここで興味を持ち「もつとくわしく見たい」という人のために。収蔵展示室となりの図書室に、これらをコピーしたファイルを置きます。たとえだ、収蔵展示室で本の表紙だけで、内容がさっぱりわからない、ということもなくそうとするものです。

展示室の資料すべてのファイルをオープン時に間に合わせるのは無理なので、幕別に特に関係の深いものから順にそろえていきます。秋は新築で引越が多いと思います。引越しや物置の整理で古い本や書類がかなり出てくると思います。ゴミ捨場へ投げたり、トイレトペーパーと交換する前に、ふるさと館へ連絡していただ

けるとうれいのですが……。

連載・第11回

幕別 ものがたり

(4)コタンに生きる
(その1)

ぶかぶかと浮き沈みしながら流れてくるわらぶき屋根、壊れた家の柱に必死につかまって水の中に見えかくれしながら流されていく人、横倒しになってもがきながら押し流されて行く馬。よく見るとはるか向こうの家の屋根の上で、こちらの方へ向かって布きれをしきりに振っている親子がいる。ヨシタロウは、握りこぶしにぐっと力をこめ、大きく深呼吸をすると

丸木舟を濁流の中へ漕ぎ入れた。救い出された親子は、無事ヨシタロウが使っていた狩漁用の泊り小屋に落ちついた。幕別と十勝地方に記録的な大洪水が襲ったのは、明治二十一年(一八九六)九月と、大正十一年(一九二二)八月の二回で、川幅二〜三キロメートルに及ぶ氾濫のすさまじい様子は、今でも古老の話として語りつがれている。楽しみにしていた秋の収穫を目の前にして、家と畑を流された入植者を、自分たちの仲間と区別することなく、次々と丸木舟に乗って勇かに救出へ向かった人々の中に、ヨシタロウのようなコタンの人達がいた。

ださい。収蔵展示室は来年一月にオープンします。

ふるさと館の来館者数が四万人を超えました。この一年、サケの

産卵をはじめ、サブイバルスクールなどの企画にたくさんの方が参加してくれました。ふるさと館はまだ生まれたいばかり。スタッフ一同、新しい企画をいっぱい抱えています。お楽しみに……。